

徳島大学病院は、循環器病患者らの支援体制を充実させる県内の拠点「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を院内に開設した。厚生労働省のモデル事業で、患者や家族らの相談窓口を一本化し、予防から治療、社会復帰までをワンストップでサポートする。地域の医療機関と連携して予防や治療の底上げも図る。

脳卒中や心臓病 支援体制を充実

徳大病院、県内拠点開設



脳卒中・心臓病等総合支援センターの概要を説明する佐田センター長＝徳島市の徳大本部

相談窓口一本化 予防啓発にも注力

センターは8月に開設し、徳大病院の循環器内科と脳神経外科の医師や看護師ら計13人で構成。相談窓口を9月22日から1階に設け、県内在住の患者や家族らを対象に、平日午前8時半～午後5時に来所と電話で相談を受け付けている。専門スタッフが予防や治療に関する情報を提供したり、在宅療養、職場復帰に向けたアドバイスなどを行ったりしている。相談は無料。

10月末に専用のホームページを設け、大学病院では相談窓口の開設や循環器病

の予防を呼び掛けるチラシを配ってPR。今月29日時点の相談件数は13件で、脳卒中や心臓病が疑われる症状への対応や今後の療養の進め方などに関する質問が寄せられている。

関係機関に対してはセンターの概要や事業計画などを記したリーフレットを10月末に配布。今後、連携強化に向け、県内の病院などと勉強会や研修会を定期的に開いて最新の知見と課題を共有し、現場で役立ててもらう。徳島市内で出張相談や公開講座なども行い、予防啓発に力を入れる。

厚生省の調査では、脳血管疾患や心疾患は死因の上位を占めている。同省は患者らの支援や予防啓発に取り組む拠点の整備を進めるため、3月に支援センターモデル事業を公募。徳大病院のほか宮城、京都、福岡など9府県の11病院が選ばれた。同省は有効性を検証して他県での開設を検討する。

22日の徳大の定例会見で、佐田政隆センター長が概要などを説明した。

(南志郎)